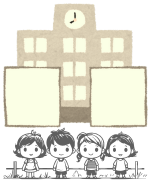
したただの郷　小学校統合だより　VOL.3



子どもたちの より良い教育環境のために

2026
JANUARY
1

TOPIC　校舎は、長沢小学校と飯田小学校のどちらを活用するかを委員長等と教育委員会で協議し、次回報告します。

　統合校として活用する小学校校舎について、準備委員会委員に長沢小学校と飯田小学校の２校を視察いただき、第４回準備委員会で検討いただきました。会議では、２校それぞれの良いところや懸念されるところが話し合われました。その後、校舎の決め方について決を採ることとし、「多数決」か「教育委員会に一任」か挙手で決を採りました。

　結果は、多数決とする決め方に挙手　19人　教育委員会に一任の決め方に挙手　22人で、「教育委員会に一任」とすることを決定いただきました。

　これに対し教育委員会からは、「委員長と副委員長と教育委員会事務局で協議をして、次回、第５回準備委員会で報告させていただきたい」と提案し、了承されました。なお、協議は学校の先生から御意見をいただいた中で行います。



第４回準備委員会の様子

□□■ 第３回しただの郷未来の学校設置準備委員会（視察）

（1）日　時　　12月16日（火）午後３時から午後５時30分まで
（2）場　所　　飯田小学校、長沢小学校
（3）内　容　　飯田小学校、長沢小学校の校舎及び周辺の視察

□□■ 第４回しただの郷未来の学校設置準備委員会

（1）日　時　　12月25日（木）午後６時から午後８時13分まで
（2）場　所　　下田中学校食堂
（3）内　容　　統合校として活用する小学校校舎について、小中一貫教育の形態について

担当　三条市教育委員会教育総務課庶務係（井上・富樫）
電話（0256）45-1111

第４回準備委員会概要

統合校として活用する小学校校舎について

【議事】各学校運営協議会の意見が集中した、長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の２つを視察し、第４回準備委員会で議論することとしていた。視察を踏まえて発言を願いたい。

意見 子どもたちが常にいる教室が大事だと思う。教室に子どもたちのスペースが十分にとれるか。図書室などを移動して教室にできるのか。どちらの校舎も教室数は足りるものの、飯田小学校の教室面積が少し狭い印象だった。

意見 長沢小学校校舎の方がゆとりがある印象だった。活用する校舎を決めるために、実際に教育に関わる先生の意見が聴きたい。

意見 どちらも良く、決めかねるが、長沢小学校校舎は教室の配置や学年別の児童バランスを考えるとバランス良く配置できると考える。他方で、飯田小学校は駐車場が完全に有利である。児童数が増えれば保護者の車の数も増えるため、周辺住民に迷惑が掛からないようにと考えると、飯田小学校である。しかし、飯田小学校校舎は、１階多目的スペースを教室に改修しなければならず、ここを残せると良いと考える。また、視察時は雨が降っており、飯田小学校グラウンドはかなり水浸しであった。

意見 甲乙つけがたい。長沢小学校校舎は構造的に広く感じた。飯田小学校校舎はアールを使ったような流れと木を使ったぬくもりがあり、イメージが良かった。立地条件は長沢小学校校舎が良いと思う。また、飯田小学校には車椅子で上がれる階段昇降機があり、人に優しい印象であった。また、下田中学校校舎も視察したいという意見があったので検討いただきたい。

意見 飯田小学校校舎は１階多目的スペースに大きな柱が２本あり、教室として使用することは現実的でないと考える。長沢小学校は駐車場の問題が非常に大きいと思う。もし、長沢小学校校舎を使用するならば、駐車場を広めに取る等、配慮が絶対に必要である。いずれの校舎も教室のスペースに余力がないことが非常に心配である。また、多目的スペースがなくなることで、２クラスある学年等、一斉指導をどこで実施するのかが課題である。令和10年４月の統合が目標ならば、２校の校舎を使用する等の検討も必要ではないか。

事務局 多目的スペースを教室として使うことは仮の話である。教室については、活用する校舎が決まった後、無理のないように設計していくので御理解いただきたい。

２校の校舎を活用することについては、令和10年４月の児童数を想定すれば、１、２、３年生は極めて少数のクラスで構成することになる。そもそもの統合の意味を考えると、活用する校舎は１校としていくべきと考えている。

教室の構成は今後検討していくものの、基本的には両校とも建設当初の児童数は令和10年度に予定される児童数とほぼ等しい。子どもの人数を見ると受入れ能力は両校とも保てると考えている。

下田中学校校舎も視察したいという御意見は、統合は１回とし、統合小学校を下田中学校校舎に統合してはどうかという御意見からのものと考える。教育委員会は令和10年度に下田地域の小学校５つを１つに統合し、その後も残念ながら少子化が進み、下田中学校校舎に統合小学校の児童が受け入れ可能という状況に至ったならば、下田中学校校舎に統合をと考えている。数

字の一人歩きを危惧して申し上げなかったものの、実際のところ令和10年度に統合するために小学校校舎を改修するとした場合、経費は大体８千万円強掛かることを想定している。他方で、令和10年度に下田中学校校舎を改修し統合するとした場合、教室数が絶対的に足りず増築となる。８～10教室について、最低でも鉄骨造りの２階建てで増築することを想定しなければならず、経費としては当初最低でも５億円は要すると見込んだ。さらに、現在も建設物価が高騰している中、この上昇やそこに計上していない周辺工事も含めると、全部で10億円程度に至るレベルも見込まなければならない。少子化の歯止めがかからない中で、令和10年度の児童数に合わせて増築しても、わずか数年後には空き教室となる。ここは現実的に先を見据えて考え、令和10年度にいずれかの小学校校舎に統合し、下田中学校校舎に統合小学校の児童が受け入れ可能となった際に下田中学校の校舎に統合することが現実的であると教育委員会は提案させていただいている。

駐車場については、保護者の皆さんに集まっていただくにはスペースが必要である。長沢小学校の駐車場は狭い、飯田小学校の駐車場は広いという意見もあるが、いずれにせよ校舎が決まった段階で考えるべきことと捉えている。

意見　長沢小学校の駐車場は、目測で95台程度を確保できると考える。以前勤めていた職員に聴いたところ、行事の際は地域に依頼して駐車スペースを用意していたとのことで、当時の全校230人の時でも問題はなかったとのことである。現在は、旧原上公民館と旧原保育所跡地に駐車スペースを作って対応している。また、通学バスは、現在クマ対策で１台多い３台を運行しているが、校地内の移動に問題はない。経路は体育館側から校門に抜けていくロータリー形式で運行しており、バスが数台増えても問題はないと考える。

Q　統合するとバスは何台になる予想で、駐車場はどれくらいの台数分が必要なのか。年に数回の行事のために新たに土地を取得するよりも地元住民にお願いするとか、警察に掛け合い一方通行とするとかが考えられる。

A　駐車場については、整備しても無駄になるのではないかという御意見はおっしゃるとおりと考えている。年に数回ならば、その都度臨時体制をお願いする中で対応できるのかも今後の検討の１つになるかと考える。

通学バスの想定台数については、これから通学部会で路線数や人数等を踏まえて台数を決定するものなので今のところはお答えできない。

意見　まず、令和15年度に下田中学校校舎に統合するのかと、小学校は２つではなく１つに統合するのかを審議してはどうか。

事務局　少子化が想定以上に進んでいることを踏まえると、１日でも早く子どもたちに適切な学習集団を提供したいこと、これを取組として進めていく時に令和10年度に一度小学校を統合し、令和15年度以降に中学校校舎に統合していくことが最も現実的と考えた。皆さまが腑に落ちていないのならば御発言いただきたい。いずれの判断であっても、統合は現状を大きく変えることである。委員全員が100パーセントの腹落ちで物事が進むことはなく、それぞれが多かれ少なかれの折り合いをつけて決定していかなければならないものと捉えている。

Q 多目的スペースは、国の指針でも標準的に設置することが重要な施設という文言がある。そういったところは必ず残してもらいたい。今回のレイアウトの中でちゃんと示してほしかった。校舎が決まった後しかレイアウト案はできないのか。

A 詳細な資料を出せないことはお詫びする。詳細な資料を出すには一定の時間が掛かる。いずれにしても学校基準に見合うように整備が必要なので、そこまでの作業は今回しなかったところ。限られた判断材料で御判断いただくことになるが、御理解いただきたい。

意見 長沢小学校と飯田小学校の委員以外の笹岡小学校、大浦小学校、森町小学校の委員で協議してはどうか。1番は校舎ではなく、先生だと考えるので、令和15年度以降に下田中学校校舎に統合することが一番良いと思っている。その間に活用する校舎については、皆さんが納得すればどちらでも良いと考える。

Q 最初から下田中学校校舎に増築できない前提で話を始めれば良かったと思う。先ほど金額が出てきたが、なぜ懇談会で最初から言わなかったのか。

A 数字が一人歩きする懸念があることと、金額は動くものであるため具体的な金額まで申し上げなかった。しかし、想定される事情を考え、現実的に小学校校舎に統合することが望ましいことを懇談会で都度お話しした。

Q なぜ、5億円くらい出せないのか。大崎学園は立派な校舎がある。下田地域だけやっつけ感があり納得できない。

A 先ほど最低でも当初5億円程度を見込んだという金額をお答えしたが、さらに、小学校と中学校では階段の蹴上げなどの基準が違うため、中学校校舎に小学校が入るとすると既存の下田中学校校舎の改修も必要となる。これを含めると合計で10億円程度に至るレベルを想定している。大崎地域と差をつけているわけではない。大事な税金であることを考えると、先々空き教室が生まれることが想定される中で投資をすることは、税を預かる立場としてはなかなか難しく、現実的な話として、一旦いずれかの小学校校舎を活用して統合することを提案させていただいている。

意見 ハードで費用を掛けられないのならば、ソフトで面白いことをする費用を掛けてほしい。それは確約願いたい。

Q 活用する校舎の決め方は無記名投票ではどうか。無記名では遺恨が残る懸念があると考える。

A 投票の場合、例えば、長沢小学校の委員が長沢小学校校舎に票を入れたとか入れないとかで遺恨が残るのではないか。それならば教育委員会に一任という決め方でも良いのではないか。

意見 教育委員会に一任の決め方でも問題はないと思うが、先生方の意見を十分に聴いてから判断してほしい。

意見 我々は責任ある委員である。今、多数決で決めてはどうか。


飯田小学校　教室

【提起】活用する校舎の決め方について、「多数決」か「教育委員会に一任」か挙手で決を採ってはどうか。
（全員異議なし）

多数決とする決め方に挙手
19人
教育委員会に一任の決め方に挙手　22人

拮抗しているものの、「教育委員会に一任」に決定してはどうか。
（全員異議なし）

事務局　「教育委員会に一任」ということだが、全てを教育委員会に預けるということではなく、委員長と副委員長と教育委員会事務局で協議をして皆さまに御報告するということでよろしいか。なお、先生の意見を聴いてほしいとの意見があったので、先生からの意見をいただいた中で協議する。
（全員異議なし）

【決定】統合校として活用する小学校校舎は、「教育委員会に一任」とすることを決定。先生からの意見をいただいた中で、委員長と副委員長と教育委員会事務局で協議をして、次回、第５回準備委員会で報告する。


長沢小学校　教室

小中一貫教育の形態について

【議事】第２回準備委員会で委員の皆さんに事前に理解を深めていただき、第４回準備委員会で議論することとしていた。小中一貫教育の形態について発言を願いたい。

Q　教育委員会の考えはどうか。

A　義務教育学校も小中一貫教育である。三条市は、小中一貫教育を全市で進めている。その中で義務教育学校という形態と、１つの建物の中に小学校と中学校がある一体型と、小学校と中学校が分かれている分離型の３種類がある。これのどの形態にするのかということ。それぞれの特徴があるが、その特徴の中にあるデメリットを様々な形で工夫をしながら穴埋めをして、子どもたちのために小中一貫教育をしている。
　その上で、令和15年度以降に統合小学校が下田中学校の建物の中に入るということは、先ほどおおよその合意が得られたかと思う。そう考えた時に、令和15年度以降に義務教育学校にするのであれば、令和10年４月に開校する統合小学校も、現在の下田中学校と一緒に義務教育学校にして、施設分離型の義務教育学校を開校することが１つの選択肢である。また、令和10年４月にとりあえず統合小学校は小学校として、下田中学校は中学校のままとして、令和15年度以降に下田中学校校舎に統合小学校を受け入れる際に義務教育学校にすることがもう１つの選択肢である。
さらに、令和15年度以降に下田中学校校舎に統合小学校を受け入れたとしても、統合小学校は小学校、下田中学校は中学校のままで施設一体型が良いという選択肢もある。この３種類を皆さんから御意見いただきたいもの。どの形態であっても良い学校を創っていかなければならないことは一緒である。

Q 大崎学園を義務教育学校にした理由はなにか。

A 小中一貫教育を進めていく上で、９年間の義務教育を考えたとき、義務教育学校が最も良い形態であると思っている。大崎学園は１つの小学校と１つの中学校であったため、新しい建物を建設する時には義務教育学校が良いと考えた。

Q 小中一貫教育学校と義務教育学校で総合学習の内容は変わるのか。

A いずれの形態をとっても、学校運営部会でカリキュラム等を精査していく。

Q 下田地域の小学校では総合学習をどのように行っているのか。

A 現在どの小学校も年間70時間を総合学習に使っている。その活動内容は、それぞれ工夫を凝らして実施しており、地域に関する学習、環境学習、農業体験が共通して含まれている。また、講師は地域の方から入っていただき、地域の実態を捉え、関わることで学ぶ工夫を凝らしている。

意見 今、ＡＩ等の技術が進む中、知識だけでなく実際の自然体験の中で一緒に学ぶことが大切であると考える。滝沢市長は、「少子化だからというネガティブな事ではなく、むしろチャンスと捉え、どうすればより良い環境で教育を受けることができるのか皆さんと一緒に考える良い機会と思っている。」と発言した。また、髙橋教育長は、「この地域ほど子どもと密接にカリキュラムを進めているところはない。５校の小学校のそれぞれの知見が１つにまとまり、文部科学省が推進する地域に開かれた学校が開校することになる。」と発言した。さらに、山田委員長は「これはチャンスであり、下田地域でしかできない学校を子どもたちのために創っていただきたい。」と発言した。これらは総合学習でしか取り入れることが出来ないと思う。小中一貫教育学校でも、義務教育学校でも、下田地域でしかできない教育を、教育委員会も一緒になって検討いただきたい。「この学校に通わせたい」と思われる学校づくりのために、やはり下田地域の環境を使うべきと考える。ぜひ総合学習の時間の幅を広げていただきたい。

意見 それがまさに発展的縮小であると思う。小中一貫教育の形態が違えど中身は同じである。各部会で検討してほしい。

Q 統合による国の支援について、一番支援が受けられるのは３パターンの中でどれか。あるパターンだと多くの支援を受けられ、その分を学校運営に回すことは考えられるのか。学校視察の際、２校とも教室の床がくすんでいたが、費用が足りず３年に１回しかメンテナンスできないとの説明を受けた。子どもが学ぶ学校施設を良くするために、補助金など活用できるお金を獲得して運営コストに充てるという視点でも見てほしい。

A 小中一貫教育の形態で国等の支援の額は変わらない。ただし、令和15年度以降に小中一貫教育校の施設一体型を目指して、令和10年４月に小中一貫教育校の施設分離型として小学校、中学校を分けて設置するとした場合は、統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章を新たに設置することになる。中でも校歌の作成委託にはそれなりの時間と経費が掛かると見込まれる。他方で、令和15年度以降に義務教育学校の施設一体型を目指すならば、令和10年４月は義務教育学校の施設分離型にすることが濃厚である。この場合、例えば、現状の中学校校歌等を用いるなどして、令和10年４月の段階で義務教育学校の校名等を新たに設置しておくとするならば、令和15

年度以降に施設一体型にしても校歌等はそのまま生かされることになる。経費で比べるならば義務教育学校の施設分離型にする方が有効という見方ができる。

Q 大崎学園は校長が1人でPTA組織も1つとのことだが、義務教育学校の施設分離型とした場合はどうか。

A 校長は1人だが、PTA組織の在り方は地域交流部会の検討内容となる。

意見 災害時、何かを決めたい時にどちらかの校舎にしか校長がいないということは、決定に時間が掛かり職員としてはやりにくいので、義務教育学校の分離型ではない方が良いと思う。

意見 義務教育学校の分離型に次の点で不安がある。指揮系統が二つとなること、物理的に距離があり義務教育学校としても小中連携が難しいこと、義務教育学校にしてから小中一貫教育校に戻すことは難しいこと。以上のことから、小中一貫教育校の施設分離型が良いと考える。

事務局 義務教育学校の施設分離型を実施している市は、危機管理上、校長が1人であるリスク回避のために対策をしていた。当然、副校長に権限を与えたり、デジタル回線の使用ですぐに連絡が取れたりなど、危機管理上あらかじめマニュアルを設定しておく必要がある。現在の形態でも校長が県外出張の時に地震が起きる場合もある。いずれにしても、施設分離型であれば小中一貫教育学校も義務教育学校も同じで、カリキュラムや行動連携について、統合小学校と下田中学校と地域のスクラムをどうやって組むのかを考える必要がある。また、指示系統の分裂については、あらかじめのマニュアル設定等で回避できるものであるし、回避しなければならないと考えている。ただし、校長が1人であることが直感的に不安という気持ちは分かるので、議論が必要である。

意見 令和15年度以降を考えると、義務教育学校という教育委員会案が良いと思う。

事務局 小中一貫教育校だと小学校と中学校のそれぞれに校長がいることになる。例えば、施設一体型は嵐南小学校と第一中学校であるが、今も連携して運営している。ちなみに、嵐南小学校と第一中学校を開校する際は、まだ義務教育学校の制度はなかった。

Q 今後、嵐南小学校と第一中学校を義務教育学校にする予定はあるのか。

A 嵐南小学校と第一中学校は開校当初から教育カリキュラムの改定を重ねて今年で11年目であるが、どの段階で義務教育学校にするかの予定はない。一ノ木戸小学校と第二中学校も同様で、今後考えていかなければならない。

Q 教育委員会は義務教育学校が理想という考えか。

A 小中一貫教育を9年間やり遂げるという意味では、義務教育学校が理想型だと思う。令和15年度以降に下田中学校校舎に統合小学校を受け入れる際に、義務教育学校になるとして、令和10年4月から義務教育学校になるまでは統合小学校と下田中学校のままという意見や、令和10年4月から義務教育学校の施設分離型とする意見があり、その議論は必要である。

Q 義務教育学校になるまでは統合小学校と下田中学校のままの場合、統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章はどうなるのか。

A いずれ義務教育学校になるならば、例えば下田中学校の校歌を統合小学校の校歌にすることも1つの選択肢である。せっかく校歌を設置しても5年程度でなくなってしまうなら、今ある校歌を使うという議論もあると思う。

Q 小中一貫教育の形態について、学校運営部会で検討してはどうか。

A この会の運営上の意見だが、学校運営部会は、準備委員会が統合の根本である統合時期、活用する校舎及び小中一貫教育の形態を決めた後、詳細な統合小学校の運営について検討する部会である。統合方針の基本となる小中一貫教育の形態を、学校運営部会に委ねるべきでないと考える。

意見 次回、各学校長から意見を聴いてから決めてはどうか。

【提起】次回、第５回準備委員会で各学校長から意見を聴き、方向性が見えた中で議論してはどうか。
（全員異議なし）

【決定】小中一貫教育の形態は、次回、第５回準備委員会で各学校長から意見を聴き、方向性が見えた中で議論することを決定。

意見 残りの小学校校舎４つは役目が終わることになる。小学校校舎は地域にとって、とても大切である。廃校となる小学校校舎の使い方をよく考えてほしい。


第４回準備委員会の様子

□□■ 第５回しただの郷未来の学校設置準備委員会の予定

（1）日　時　令和８年１月20日（火）　午後６時から
（2）場　所　下田中学校食堂
（3）内　容　統合校として活用する小学校校舎について、小中一貫教育の形態について
（4）その他　どなたでも傍聴できます。申込み不要です。直接会場にお越しください。

□□■ 学校の在り方について、ご意見をお聞かせください

学校の在り方についてのご意見等がありましたら、ぜひお寄せください。お寄せいただく方法は、電話又はグーグルフォームでお願いします。

グーグルフォームの入力はこちらを読み込んでください。→

□□■ これまでの準備委員会の経過はこちら

https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/sanjoukyouiku/sanjoukyouiku/iinkai/19576.html

しただの郷未来

担当　三条市教育委員会教育総務課庶務係（井上・富樫）
電話（0256）45-1111